

開催日時：2025年7月5日（土） 13：00～16：00

場 所：神奈川大学横浜キャンパス 3号館3階

参加人数：運営27名（3年23名・大人4名）

参加者382名 計409名

担当教員：齊藤 ゆか（人間科学部教授）寺嶋 正尚（経済学部教授）



コンセプト

「まだ見ぬ星をみつけにいこう」

想い：自分の興味関心が向くような星を見つけたり、

自分に輝きかけているような星に出会ったりする場にしていきたい。

趣旨

若者が主体となり、地域・社会の課題を実践的に学び、「持続的な社会の創り手」になるための方策を発信し、共有する取組。

○若者らの関心に基づき、「テーマ」設定を行い、地域連携学習（Community-Based Learning=CBL）及び問題解決型学習（Problem-based Learning=PBL）などとして、プロジェクトベースで動く。

○若者らが、行政・民間（地域団体など）と協働して、「テーマ」に基づく地域・社会課題を実践的に学ぶ。（プロセス学習を重視する）

○「住みたいまち」「住み続けたいまち」に向けて、持続的な社会の創り手として、若者の観点から、地域・社会課題の発見と提案を行う。また、これらを、若者が若者に向けて情報発信・共有をする。

○大人は、若者参画の「見守り」に徹する。（見学は可能、口出しはしない）



実施主体

社会教育課程「地域デザイン演習Ⅳ」履修者
（かながわユースフォーラム実行委員）

○学生代表：露口遥菜（人間科学部3年）
副代表：佐々木真白（人間科学部3年）

実績と流れ

2020年度から年に1回実施。2025年度は6回目。

STEP1：地域課題の洗い出し・班分け（1～4月）

STEP2：地域課題の共有（5月上旬）

STEP3：若者ができる地域実践＝具体的なプロジェクトを探る（5月下旬）

STEP4：プロジェクトの実行（6～7月）

STEP5：プロジェクトの実践内容と成果をユースフォーラムで分科会として報告するとともに、次年度に向けて反省点などを共有（7月13日）

STEP6：継続して地域と関わっていく（7月～）

参加者数

	人数（人）
学生運営スタッフ	23
運営大人スタッフ	4
ボランティア	11
参画団体（分科会）	61
参画団体（パネル）	27
参加者	283
全参加人数	409

協力（敬称略、順不同）

★神奈川大学
資格教育課程センター教職課程
JYSP事務局
学生ボランティア活動支援室
生活協同組合
★学校
捜真女学校高等学部
横浜市立東高等学校
産業能率大学（武内千草ゼミナール）

★行政
横浜市
横浜市教育委員会
神奈川県
神奈川県立青少年センター
神奈川県警察 戸塚警察署
小田原市

★民間
神奈川県社会福祉協議会
神奈川県斎藤分南部町内会
神奈川県多文化共生ラウンジ
神奈川県地域子育て支援拠点かなーちえ
公益財団法人よこはまユース
あおばコミュニティ・テラス
NPO法人good！
NPO法人アクションポート横浜



プログラム

第I部 開会式、趣旨説明 (30分)

第II部 分科会・パネル展示 (120分)

【分科会】

テーマに即して課題解決にむけて学生同士が議論し、提案するワークショップ。

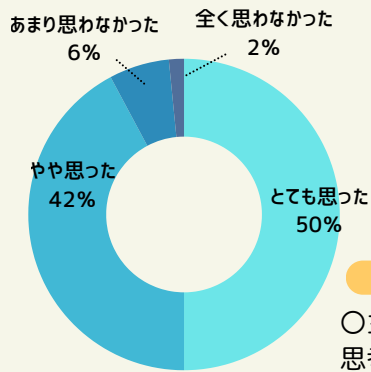
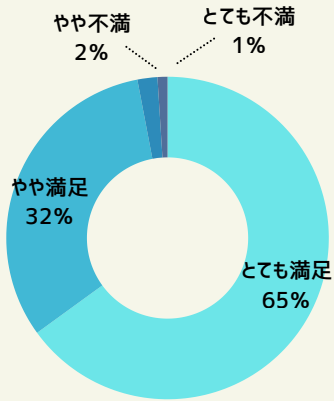
- ①食「学食王は俺だ！-横浜キャベツ編-」
- ②多文化「身近な多文化に触れてみよう！」
- ③子ども「今後の外遊びのあり方を考えよう！」
- ④町内会「町内会の活動をのぞいてみよう！」
- ⑤防犯「守ろう。地域の子供たち！」
- ⑥居場所「住みやすいまちづくり」
- ⑦ワークキャンプ「一歩踏み出して知らない世界を見に行こう！」

第III部 リフレクション、評価 (20分)

リフレクションの後、その場でアンケートQRに回答してもらうことで回答率を上げる工夫をした。

「かながわユースフォーラム2025」
の満足度 n=256

今後、地域活動（神奈川大学周辺）
に参加したいと思ったか n=256



参加者の満足度

97%

(かながわユースフォーラム2025報告書より抜粋)

参加したいと思った

92%



学生が作成した顔出しパネルを入口に設置したところ多くの来場者が写真を撮っており、好評を得た。

120分を3クールに分け、参加者は2つの分科会とパネル展示を回る。

今回初めての試みとして、5つのパネルに説明ブースを設け、パネル展示参加者を二つのグループに分け、ブースありパネルと展示のみのパネルを約15分ずつ入れ替えて閲覧するという仕組みを実行した。

【パネル展示】

学生が実践してきたテーマや行政の取り組み、地域のボランティアのパネル展示をする。

- ①SDG s 「高校生とSDG s」
- ②神奈川区「2年後何の年か知ってる？～2027年に向けて～」
- ③食農「食と農の学び」
- ④ジェンダー「おもちゃとジェンダー」
- ⑤学習支援「JIN-KANA学習塾の活動」
- ⑥青少年センター「潜在的なボランティア層への支援」
- ⑦ボラ室「学生ボランティア活動支援室に来ると何ができるのか？」
- ⑧NPOの活動「街にたくさんの主人公を」
- ⑨ボランティア学習論
「私たちが目指したい未来：SDG s から考える」
- ⑩社会教育論「ようこそカフェ さくらリビングに行ってみた」
など

参加者の声

○主体的に参加できるブースが多く、社会教育についてじっくりと思考をめぐらすことができた。実践的なものもあってとても勉強になった。

○グループワークや意見交換などで関心だけでなく、自分の意見を主張することの大切さを学ぶことができた。人の意見を聞いたり、見たりできて、楽しかった。

